

授業科目 司法福祉特論	科目概要・形式 単位 15 時間(8 コマ) 講義科目	配当年次 <input type="checkbox"/> 博士前期・後期 1 年次 前期・ <input type="checkbox"/> 後期開講	オンライン参加 <input type="checkbox"/> 可・不可
科目責任者	齋藤 史彦		
担当者	齋藤 史彦		
1. 科目のねらい・目標			
<p>本講義では、刑事司法制度の近年の動向や基本原理を踏まえながら、犯罪行為をめぐる理解のあり方と刑事司法制度との関係について検討する。特に、刑罰制度、少年司法、矯正処遇、更生保護、修復的司法などの制度の目的や機能を整理し、それらの制度においてソーシャルワーカーが果たす役割について理論的・実践的観点から考察する。</p> <p>また、刑事司法制度の運用には多様な関係機関が関与していることを踏まえ、制度間の連携やネットワーク形成の課題についても検討する。これらの検討を通じて、刑事司法における支援のあり方と人間行為の理解について多角的に考察する力を養うことを目的とする。</p> <p>本講義を通じて、受講者が以下の点について理解を深めることを目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 刑事司法制度の近年の動向や基本原理、諸制度の仕組みについて理解する。 2. 刑事司法の制度においてソーシャルワーカーが果たす役割について理解する。 3. 刑事司法制度に関わる関係機関の役割や連携のあり方について理解する。 4. 犯罪行為の理解や責任の捉え方について多角的に検討する視点を身につける。 			
2. 授業計画・内容			
第1回 犯罪と人間行為理解 — 近年の犯罪動向と原因論 第2回 刑罰制度の発展と機能 — 責任概念をめぐる議論 第3回 刑事手続きと法の原理 — 制度設計と人間行為理解 第4回 少年司法制度の目的と保護手続き 第5回 入口支援・出口支援の理論と実践 第6回 成人の施設内処遇と社会復帰 第7回 少年の施設内処遇と社会復帰 第8回 社会内処遇と修復的司法 — 関係機関の連携と課題			
3. 教科書、参考書			
<ol style="list-style-type: none"> 1) 教科書 特定の教科書は指定しない。各回の授業において関連する文献を提示する。 2) 参考書 授業内容に応じて論文や資料を適宜紹介する。 			
4. 成績評価方法			
授業への参加状況・ディスカッションへの貢献 40% 文献報告または授業内発表 30% 最終レポート 30%			
5. 受講要件			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉学、刑事司法、ソーシャルワーク等に関心を有する大学院生を対象とする。 2. 学部レベルで刑事司法制度や社会福祉に関する基礎的知識を有していることが望ましい。 3. 刑事司法分野の実務経験の有無は問わない。 			
6. 社会人学生に対する配慮			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 受講希望者と相談の上、夜間開講、集中講義等を検討する。 2. 課題提出等については社会人学生の事情に配慮し、必要に応じて柔軟に対応する。 			
7. その他			
オンデマンドは不可とする。			